

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520080

研究課題名（和文）ユダヤ・ディアスポラの伝承・刷新を担った諸拠点をめぐる多元的研究

研究課題名（英文）A multi-dimensional research on the intellectual bases of the heritage and renewal of diaspora-judaism

研究代表者 合田 正人 (GODA MASATO)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：60170445

研究成果の概要（和文）：第一に、今回は研究範囲を拡大して、特にドイツのユダヤ系思想家の諸著作をも読解し、特に「隣人」の観念に関して、これらの思想家とエマニュエル・レヴィナスのような思想家との共通点を指摘し、かつ、これらのユダヤ系思想家たちをスピノザとの関連で捉え直す視点を得ることができた。第二に、レヴィナスの博士論文『全体性と無限』出版50年を記念して国際シンポジウムを開催することができた。第四に、国内での様々なユダヤ教シンポジウムで発表し、シオニズムとディアスポラとの関連について大いに論議することができた。第五に、2012年度にはイスラエルと東欧の各都市を訪れ、ユダヤ連施設を視察し、当地でのユダヤ教研究者たちと交流することができた。第七に、現代フランスの代表的なユダヤ系思想家D・シボニー氏を日本に招聘することができた。『三つの一神教』の著者でもあるシボニー氏との対話を通じて、報告者はイスラームにも視点を拡大する必要性を痛感するに至った。

研究成果の概要（英文）：As regards the results of my research during these three years, I may enumerate the following points. At first, I've enlarged the field of my research and surveyed the history of ideas of the german jewish thinkers as Herman Cohen, Leo Strauss, Martin Buber, Franz Rosenzweig etc..Secondly, in collaborating with the research on Spinoza promoted by Professor Osamu Ueno, I could come to the point of view from which one might restructure entirely this constellation. Thirdly, I could organize the international congress at Meiji University in november 2011, which commemorated the 50th anniversary of the publishing of Levinas' Totality and Infinity (1961) . And I'll publish recently the proceedings of this congress. Fourthly, I've attended many congresses on divers trends of jewish thoughts and advanced ideas on the relation between sionism and diaspora. Fifthly, I've visited Auschwitz, Cracow, Praha, Warsaw, Budapest, Vilnius and Kaunas, and inspected the jewish monuments there. Sixthly, I've visited for the first time Jerusalem and read there a paper on Levinas' talmudic lecture. Seventhly, I invited a contemporary great jewish thinker called Daniel Sibony to Japan in march 2012. With his advices, I could come to think that in order to pursue my research, it would be necessary to broaden my horizons to Islam.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計

2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：思想史

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：ユダヤ教、レヴィナス、シオニズム、宗教、倫理学

1. 研究開始当初の背景

報告者はこれまで30年にわたってフランス国籍のユダヤ系哲学者エマニュエル・レヴィナスの研究、その諸著作の邦訳の作業に従事してきた。その過程でレヴィナスが師とあおぐ他のユダヤ系思想家、哲学者たちをも研究の対象とし、レオン・ポリアコフの大著『反ユダヤ主義の歴史』、ピエール・ブーレッツの労作『未来の証人たち』などの邦訳の作業にも従事してきたが、ドイツにおけるユダヤ思想の展開、いわゆるショアーに逢着するヨーロッパ・ユダヤ教、ユダヤ人の歴史などをこの研究のなかにしかるべき仕方では包括できていたとは必ずしも言えない。また、東欧ならびにロシアのユダヤ人たちによって主導されたシオニズム思想の醸成についても十分に調査できたとも言えない。そこで今回は、このような欠を補うため、ドイツを初めとして、多様な拠点でのディアスポラ・ユダヤ教の展開を視野に収め、そこから、例えばレヴィナスの哲学を読み直す視座を得ようと思うに至った。

2. 研究の目的

第一に、報告者のユダヤ思想研究に関して、その視野をヨーロッパにおける多様なユダヤ思想の展開過程のうちに位置づけ、レヴィナスなどの哲学の新たな読解を提示すること。そのために、特にパリの全イスラエル同盟古文書館に収蔵された貴重な資料を読解すること。ヨーロッパ各地のユダヤ思想研究者たちとの生産的な関係を築くこと。第三に、そのような研究、視察、交流の成果を少しでも日本でのシンポジウムなどに反映させること。

第四に、シボニー氏の『ラカンとユダヤ教』が提示しているようなユダヤ教解釈のための新たな理論的視座を築くこと。そして最終的には、ヨーロッパとユダヤ思想という視点を、第三の一神教とも言うべきイスラームの問題とつなげる視点、そのような研究の端緒

を築くこと。

3. 研究の方法

これまでフランスを中心としてきた報告者のユダヤ思想研究に関して、そのフィールドを拡大し、ヨーロッパにおける多様なユダヤ思想の展開の過程を微妙な差異を勘案しながら研究を展開しようと試みた。資料の収集と読解に関しては、パリのBNFならびに全イスラエル同盟古文書館との協力関係を維持し、更に、ラケルなどのネットワークも活用する。このようなユダヤ思想その展開を、現象学、フランクフルト学派、ウィーン学派等ヨーロッパにおける哲学の諸潮流と関連づけていく。このような資料読解と理論構築を、ディアスポラ・ユダヤ教の諸拠点をめぐるフィールドワーク、各地の研究者との交流に心がけ、更に、その成果を、京都ユダヤ思想学会、大阪大学文学部教授上野修氏を研究代表者とする「近現代哲学の虚軸としてのスピノザ」、明治大学人文科学研究センター総合研究「模倣と創造」などとの協力関係を活かしつつ、日本でのシンポジウム開催などに反映させようと試みた。シオニズム、ベルクソンなど周辺領域の研究者たちとの積極的な交流をつねに心がけようとした。これらの行事のなかでは、何よりもレヴィナス『全体性と無限』刊行50年を記念した国際シンポジウムを組織し、その成果を発表するべく努める。

4. 研究成果

先にも記したように、ブーレッツの大部のユダヤ思想論の邦訳を完成し、スピノザ、シオニズムをめぐる内外の様々な共同研究に積極的に参加し、東欧ユダヤ教の拠点とその記念碑的施設を視察し、更には、シボニー氏の初来日を実現することができた。パリ滞在中には、全イスラエル同盟ならびにフランス国立図書館にてヤーコブ・ゴルドンなどをめぐる貴重な資料を閲覧し、パリのみならず、東欧各国のユダヤ系研究者たちとの交流を

深めることができた。なかでも、きわめて優れたユダヤ思想研究家マルク・ド・ローネイ、ハイデルベルク大学出身で現在ベルリン大学の講師を務めているシルヴィア・リヒター氏、リトアニア在住のレヴィナス、ハイデガー研究者と議論をかわすことができたのはきわめて有益であった。リトアニアのレヴィナス研究者たちは、今はもう破壊されてしまったレヴィナスの生家の見取り図、そこで発見された両親、二人の弟の身分証明書などを発掘しており、また、リトアニア語という特殊な言語とレヴィナスの思想、文体との関連にも注目質得る。きわめて興味深い視点である。

報告者が30年間係ってきたレヴィナスの主著『全体性と無限』刊行50年を記念して、明治大学で開催した国際シンポジウムには、フランスからジャン＝ミシェル・サランスキ氏、シルヴィ・クルティエヌ・ドゥナミ氏、ジェラルド・ベンスーサン氏、ドイツからトマス・ヴィーマー氏、ロシアからアンナ・ヤンプロスカヤ氏と、世界の第一線で活躍している研究者たちを招請し、大規模なシンポジウムを開催することができた。このシンポジウムが、これらの研究者と日本の若手研究者たちの出会いの場となったことは報告者にとって大きな喜びであった。また、このシンポジウムの記録は2013年度に、明治大学人文科学研究所の助成を受けて、明治大学出版会から刊行予定である。『ディアスポラの力を結集する』（明石書店）、『シオニズムの解剖学』（人文書院）の刊行に加えて、イスラエルはエルサレムのヘブライ大学でのシンポジウムの記録が「ユダヤ思想における伝統の理解とその展開——マイモニデス、スピノザ、ブーバー、レヴィナスとその後」（同志社大学一神教学際研究センター）としてすでに刊行されたこともまことに喜ばしい。最後に、今回の調査研究において、理論的には、ダニエル・シボニー氏と出会い、氏を日本に招聘したのみならず、パリにて氏のセミナーに定期的に出席できたことは最大の収穫であった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

- ① 合田正人、泡と泥のあいだで——ベケットを廻る覚書、『文学』岩波書店、査読有、12巻1号、2010、90-99
- ② 合田正人、「明日の哲学」序説、『文芸研究』明治大学文学部紀要、査読有、114号、2010、119-135
- ③ 合田正人、「他者」なき哲学試論、『文化継承学論集』明治大学大学院文学研究科、7号、査読有、2010、1-11

- ④ 合田正人、現代ユダヤ教倫理学をめぐるひとつの系譜学的対位法、『Cismor』同志社大学神学部、査読有、4巻、2011、32-42
- ⑤ 合田正人、レヴィナスと解釈学論争、『理想』理想社、査読有、407号、2011、76-87
- ⑥ 合田正人、「スピノザ主義の対極にて」？、『文化継承学論集』、査読有、8巻、2011、85-92
- ⑦ Masato GODA, Poétique des ruines. Bergson/Levinas/Benjamin, Dissemination de l'Evolution creatrice, 査読有、Olms, 2012, 231-239
- ⑧ Masato GODA, Hermeneutique du souvenir pur, Annales bergsonniennes, PUF, 査読有、tome VI, 2012, 323-330
- ⑨ 合田正人、大洋の漂流物のように——レヴィナスのシオニズムをめぐる——、『ユダヤ思想における伝統とその展開』同志社大学Cismor、査読有、2012、62-73
- ⑩ 合田正人、西周と「翻訳」の小枝、『多面愛としての森鷗外』明治大学大学院文学研究科、査読有、2012、102-111

〔学会発表〕（計8件）

- ① 合田正人、欲望の倫理——スピノザ廻るラカンとレヴィナス、スピノザ協会、2010年5月8日、明治学院大学
- ② 合田正人、現代思想におけるシオニズムと反シオニズム、シオニズムの解剖学(大阪大学COE)、2010年11月13日、大阪法経大学麻布セミナーハウス
- ③ 合田正人、現代ユダヤ教倫理学のひとつの対位法的系譜学、同志社大学神学部学際一神教センター、2011年1月22日、同志社大学
- ④ 合田正人、hermeneutique du souvenir pur, ベルクソン国際シンポジウム(科研費)、2011年10月30日、九州産業大学
- ⑤ 合田正人、レヴィナスとスピノザ、近現代哲学の虚軸としてのスピノザ、科研費基盤研究(B)、2012年5月20日、大阪大学文学部
- ⑥ Masato GODA, Tache du traducteur, Colloque sur Autrement qu'etre, Universite de Paris IV, le 6 decembre, 2012, Ecole normale superieure a Paris
- ⑦ Masato GODA, Questions relatives au bonheur chez Levinas, Seminaire sur Levinas, le 12 fevrier 2013, Ecole normale superieure a Paris
- ⑧ Masato GODA, Un pragmatiste au Japon, Universite Karel a Prague(Erasmus Mundus), le 13 mars 2013, Institut de philosophie a Prague

〔図書〕（計4件）

- ①合田正人、吉本隆明と柄谷行人、PHP研究者、2011、313ページ
- ②合田正人、アラン『幸福論』、NHK出版、2011、87ページ
- ③合田正人、アラン『幸福論』、NHK出版、2012、152ページ
- ④合田正人、心と身体に響くアランの『幸福論』、宝島社、2012、285ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

合田 正人 (GODA MASATO)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：60170445

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：